

2023（令和5）年度「ESD for 2030学び合いプロジェクト」総括表

地方センター	テーマ	ねらい	ターゲット	アウトプット (企画時)	アウトプット (2024年2月時点)	アウトカム (企画時)	アウトカム (2024年2月時点)
北海道	円山動物園×気候変動教育プロジェクト	動物園での気候変動を切り口とするESDの開発・実践の可能性について、関係者による連続ワークショップを開催して検討し、成果を道内他地域の動物園・水族館にも共有していく。	動物園・水族館等	「動物園×気候変動教育」取組メニューの作成	3回のワークショップによる127件のアイデア、47件のコンテンツ、6件の事業案	施設、学校、プログラム実践者、支援組織、企業のサポート等により、気候変動教育を継続的に実施する体制が確立する。	札幌市円山動物園の気候変動教育拠点としてのさまざまな可能性を見だし、方向性を整理できており、実践に向けた企業や市民の協力体制や共同実践に向けた関係者・コアメンバーのネットワークが形成されつつある。
東北	ローカルから考える気候変動教育	ローカルに起きている現状を学び、自分事として捉え、行動に移すことができる「持続可能な社会の創り手」を育成するための「気候変動教育」のモデルプログラムを創出する。地域ESD拠点やESD実践者と連携した教育機関を支援するモデルを創出し、発信する。	小学校	ローカル課題を取り上げた気候変動教育の授業実践、教員を対象とした勉強会の開催	地域ESD拠点や青森県内の関係者の協力を得た、勉強会を4回実施。また東北内のネットワークを活かした交流会の実施。	ESD拠点・ESD地域コーディネーター・地域の実践者が連携した継続的なプログラム実施体制が構築される。 ローカル課題を重点的に取り上げ、教科横断的に教育課程を進めるさまざまなプロセスから児童一人ひとりの行動変容が促進される。	ESD地域コーディネーター、ESD拠点との連携体制構築のほか、ローカル課題と取り上げることで、地域の多様なセクターとの連携が図られネットワークが拡充された。 プログラム実施校の教員に対する勉強会を実施し、担当教員以外へのESDや気候変動教育の意義が理解されつつある。
関東	気候変動じぶんごと化プロジェクト	身近で多様な社会課題とつなげることで、気候変動への取組意欲の向上を目指す。	学校・社会教育団体等	「緩和策」と「適応策」の統合的なアプローチにより、気候変動をじぶんごと化するプログラムの開発	モデル地域3か所でのプログラムを共有し、アドバイザーからの評価などを経てブラッシュアップしている。これに加え千葉県佐倉市の小学校でモデル授業を追加実施。適応センターに協力を呼びかけ、JACCCA関東ブロック会議でも情報共有した。	気候変動、防災、教育などの様々なテーマで活動する組織が連携し、気候変動教育が面的、質的に向上する。	「気候変動×防災」をテーマとしたプログラムの実施箇所が増え（面的広がり）、かつそれを実現するための地域内連携（質の向上）が進みつつある。佐倉市は令和元年の水害を受け、市の中長期計画重点施策「②気候変動への対応」で学校教育におけるESDの充実を抱けており、市の施策と連携した展開となった。
中部	地域づくりのためのSDGs・気候変動社会教育	気候変動を切り口とした、地域の状況やニーズに応じたテーマを定めた学び合いの機会を提供し、ローカルSDGsのためのESDの社会実装を目指す。	ESD関係者・社会教育拠点	年2回のオンラインセミナーとリアルでの体験型実践セミナー 中部版ESDワークブック「現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック」の制作	年2回のオンラインセミナーとリアルでの体験型実践セミナー（R5参加実績、延べ111名） 中部版ESDワークブック「現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック」原稿の制作	ESDの意義とノウハウの拡散により新たな教育現場が創出され、教育現場における実践が拡大し、学習者が増加する。	3年間のオンラインセミナー、実践セミナーの開催によりESDの意義とノウハウの拡散が進んでいる。 ワークブックの作成により新たな教育現場が創出され、教育現場における実践が拡大し、学習者が増加が期待される。
近畿	事例から学ぶESD ～学校と地域の連携～	学校と地域の連携事例について学び、学校と地域の「壁」を乗り越えるための手立てなどを考え見出す。	学校・行政・地域団体	全5回の勉強会開催を通じた学校と地域が効果的に連携するためのポイント・課題の整理	事例紹介と意見交換をワンセットとした連続講座を4回、まとめを1回行った。（すべて対面） 延べ77人の参加があった。	持続可能な人づくりのためのベースが整備され、連携が行われることでより質の高いESD・気候変動教育が近畿各地で行われる。	セクター間での事例の共有を通して学校現場に対する理解が進み連携の機運が高まっている。 また、気候変動教育実践の必要性が各セクターに浸透し始めている。
中国	北栄町脱炭素ロードブック制作プロジェクト	脱炭素地域づくりのプロセスを可視化する冊子の取材活動・制作を通して、脱炭素地域づくりの担い手育成や各主体の取組に対する町民の理解を促進する。	脱炭素地域づくりに取り組む・関心のある町民・ユース・事業者・学校・行政	北栄町脱炭素ロードブックの取材・制作・発信	脱炭素地域づくりの4つの取組（公民館断熱DIY、町民家庭、鳥取みらい電力、町長・役場）の取材	多様な主体による脱炭素地域づくりの取組プロセスが可視化され、町内の理解や関心が広がる。脱炭素地域づくりの担い手が循環育成され、取り組む地域が拡大する。	取材活動のベースとして、第2次北栄町環境基本計画区域施策編策定のためのワークショップを通じた人材の確保と育成。取材活動を通じた脱炭素地域づくりの理解や可視化が進んでいる。
四国	四国ESDバーチャル大学	意見交換・マッチング等の機会を創出しつつ学びや実践のアーカイブづくりを行い、ESDについての原論的理解を図りながら、具体的なプロジェクトの実現を目指し、地域から社会変容を促す。	ESDに取り組む多様な主体	4回の四国ESDバーチャル大学イベント、四国ESDフォーラムの開催	バーチャル大学3回の実施	多様な主体による「〇〇×気候変動教育」の取組が広がることで、気候変動教育が面的、質的に向上する。	多様な主体との連携によってさまざまな分野の学びを気候変動教育と結びつけ、地域ESD拠点の特色を生かした気候変動教育、ESDプログラム作りの素地が作られた。
九州	気候変動教育推進に向けた環境学習施設ネットワーク形成	自治体等が設置する環境学習施設の取組に関する情報交換、ノウハウ共有をとおして地域ならではの課題認識を明らかにする。また、気候変動教育・学習のあり方など地域目線での活用方法を含め、関係施設間のネットワークづくりを通して論点を深める。	環境学習施設	気候変動教育推進を目的とした環境教育施設間のネットワーク形成	・4施設へのヒアリング ・オンラインでの意見交換（1回、1月下旬）	地域におけるESD・人材育成推進拠点として存在感が高まり、地域のESDネットワークが広がる。 地域における気候変動教育を含むESD推進者としての役割を発揮し、ESDハブ機能が拡充される。	・各施設の取り組み状況が共有される（施設間のネットワーク形成） ・企業等との連携や人材育成に関する課題が把握された ・専門家や専門的な拠点との連携ニーズが把握された